

中国・北欧社会福祉国際フォーラムでの自由研究発表報告 II

孫 応霞

大阪府立大学大学院

今年、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、中国福祉研究専門委員会第12回年次総会（『中国・北欧社会福祉国際フォーラム』）は、2020年11月14日～15日にオンラインで開催された。大会のテーマは、「新型コロナ危機における社会福祉の発展とソーシャルガバナンスシステムの構築」であった。今回、イギリス、スウェーデン、ノルウェー、フィンランド等の北欧諸国、また日本、韓国の研究者を招待し、中国福祉研究フォーラム（中国語での報告）、中国－北欧国際フォーラム（英語での報告）と東アジア特別研究フォーラム（英語、日本語、中国語、韓国語での報告）という3つのフォーラムに分けて、それぞれ活発な議論が行われた。

私は東アジア特別研究フォーラムに参加し、「生活保護世帯の高校未進学・中退の子どもに対する支援の分析—生活保護ケースワーカーへのインタビュー調査から—」というテーマで、中国語に翻訳したパワーポイントを用いて、日本語で報告を行った。当フォーラムでは、合計6名（中国、日本、韓国それぞれ2名）の報告者が参加し、中国の報告者は英語、中国語、日本の報告者は日本語、韓国の報告者は韓国語、英語で報告を行った。報告者の持ち時間は15分で、当フォーラムの司会者またはコメンテーターが、日本及び韓国の報告者の内容を中国語に通訳してくださった。

当日、私の報告について、コメンテーターから2つのコメントをいただいた。一つ目は、高校生に対する教育保障の研究は重要であるが、現在、中国において、義務教育保障に関する研究がメインで、やはり先進国と発展途上国の間に研究の着目点の違いがあるのではという指摘である。二つ目は、高校教育または高校生の位置づけは、国によって違っているため、それらの違いをどうみるか、あるいは考えていくか、ということであった。私はフォーラムの参加を通じて、中国におけるコミュニティーソーシャルワークの現状と東アジア児童福祉制度の異同、また、韓国の社会サービスなどについて知ることができて、大変勉強になった。

今回の大会を企画した日本社会福祉学会、中国社会科学会社会福祉研究専門委員会に深謝申し上げる。また、私の報告内容を中国語に通訳してくださった、上海大学の楊程先生に心より感謝を申し上げます。今後、自分の研究に励むとともに、国際・日中の学術交流を深めていきたいと考えている。